

新任運転士への自己チェックを 活用した安全指導

No.104

園田 哲也

西日本旅客鉄道株式会社

鉄道本部運輸部動力車操縦者養成所 所長

はじめに

本手法を鉄道総研とともに開発した目的は、運転適性検査、その他の心理検査などを用いて個人の心理特性を把握し、個人特性を考慮した安全指導を行うことでした。

開発の前提条件として、運転適性検査については安全指導に活用できる要素はあるものの、可否の判定に関わるものであることから本検討対象から除外することとし、指導対象者を養成体制が確立された運転士に限定することとしました。

安全指導手法の考え方

業務に必要な知識・技能については、これまで実施してきた指導手法により熟練者から新任者に伝授可能ですが、安全についての指導は、本人の態度をより安全側に変容させ、その変容を本人が納得して、自発的に変わろう、成長しようと考え、具体的な行動ができるよう導くことが重要です。

そのポイントとしては2点、1点目は押しつけや決めつけではなく自ら対処したい、エラーを防ぎたいと考えるように気付きを促すこと、そして2点

目は対象者の成長に合わせて、一過性の指導ではなく長期的に連続して指導を行い、必要な知識と気付きを与えていくことです。

そこで、個人の成長を支援するコーチング手法を用いることとしました。

安全指導の概要

安全指導手法の対象は新任運転士とし、対象期間は動力車操縦者養成所での養成段階から運転士免許取得後2年間までとします。

1.自己チェック

動力車操縦者養成所において、大阪大学篠原教授らが作成した「日常的注意経験質問紙」により「自分自身の集中力は思い通りにコントロールできる」など26項目についての自己チェックを行います。

2.フィードバック

自己チェックの結果から以下の3点についてフィードバック用紙を作成し、本人と共有します。

- ・注意を集中する能力
- ・注意のそれやすさ
- ・上手に注意を割りふる能力

3.グループミーティング

心理特性を指導に活用するため、少人数でのグループ討議により自己の心理特性や他者の類似の経験、事故防止の自主的工夫などについて話し合うなかで理解を促進します。

4.シミュレーター訓練

運転士区所配属後、心理特性に基づくエラー誘発課題を含んだ訓練の中で、課題に対して自己の心理特性の働きや新たな気付きについて、講師とともに振り返りを行います。

5.面談

本人が不安に感じる心理特性について、今後どのような工夫を行っていくか、それを指導者側がどう支援していくかについて上司と面談を行い、定期的なフォロー面談などに活用していきます。

おわりに

運転士養成は動力車操縦者運転免許を取得させることが第一の目的ではありませんが、安全を最優先に自らが考え行動できるようになることが重要であるとの考えから、乗務員指導標準に組み込んで継続して取り組んでいます。

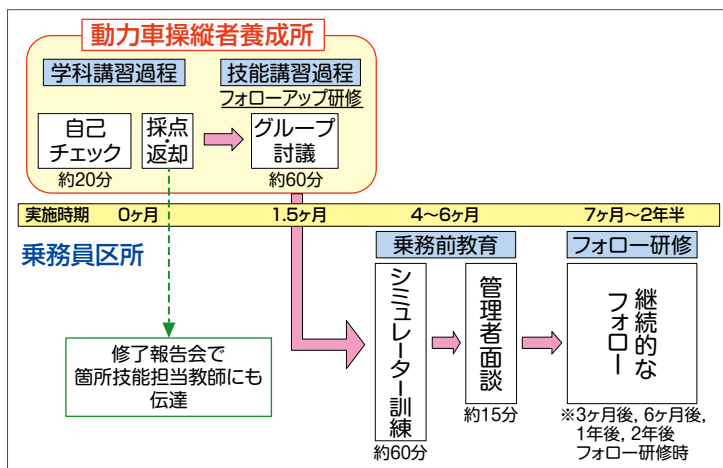


図1 指導方法の手順

表1 心理特性のまとめ

	内容	事故事例
注意を集中する能力	自分の意思や作業の特徴にしたがって、自分の注意力(集中力)を思ったように高めることができる能力	乗務の終わりに、その後のことを考えてしまう。
注意のそれやすさ	自分の意図に反して、注意が適切な対象以外のものごとに向けられてしまう傾向	お客さまのことに気がそれてしまう。
上手に注意を割りふる能力	複数の課題をうまく組み合わせたり、新しい課題が加わってもうまく注意を割りふる能力	気を使う仕事の途中、突然、対応しなくてはならない事態が起こり、あわててしまう。